

## 令和7年度「いわて新農業人チャレンジファーム」第10回研修を開催しました！

第10回研修は、令和7年7月11日（金）に開催しました。

今回は、雫石町内の株式会社みのり片子沢への視察研修とコテージむら実習ほ場において実習野菜の栽培管理を実施しました。

株式会社みのり片子沢は、雫石町西安庭におよそ100haのほ場において、水稻や大豆、リンドウを栽培しています。また、冬季には所有する重機を活用した地域の除雪や自社の機械整備等により通年雇用を実施しています。JAからライスセンターを買い取り、自社栽培米のほか、周辺の農家が収穫した米も受け入れるなど、地域に根差した営農組織です。

視察研修の初めに、同社の三宅博都専務から、経営概況や取り組み、三宅専務の就農に至った経緯などのお話を伺いました。

三宅専務は他業種から就農し、前職では国内外を駆け巡るエンジニアとして勤務していました。2016年に地域おこし協力隊として雫石町

農林課に赴任し、縁があり雇用就農されました。当時は、みのり片子沢以外の複数の法人等から声がかかり、地域農業の人材不足を感じたとのこと。現在は自ら農作業に従事し、従業員の勤怠管理も担っているとのこと。

三宅専務からは、「周辺地域の高齢化は顕著であり、若い人の働き手が不足している。今後は、若者に農業の魅力を伝えるような活動もしていきたい」と、これからの地域農業を守り、発展させていくための、強い意志を感じました。

視察研修のあとには、コテージむらの実習ほ場に戻り、トマトの収穫やパイプハウスへの寒冷紗設置、えだまめの間引きなどを行い、限られた時間の中で、手分けして予定の作業を終えることができました。

第11回研修は、令和7年7月25日（金）及び26日（土）にコテージむらにおいて、岩手の花きについての講義と、実習野菜の管理作業を実施する予定です。



視察研修①「大規模集落営農法人の取り組み」の様子



りんどうの栽培及び出荷について説明する三宅専務



完熟したトマトを収穫する受講生



ハサミを用いてえだまめを間引く受講生